

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 29 年 9 月 23 日  
＜第 5 号＞  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## ●合宿「塾生同士が切磋琢磨し、実践的指導力の向上を図る。」

平成 29 年 8 月 22 日（火）・23 日（水）に、国立オリンピック記念青少年総合センターで 1 泊 2 日の合宿を行いました。

開講式では、東京都教職員研修センター 大和 義行 研修部長から、「公開講座に向けた授業検討を通じて、学習指導力を着実に身に付けること」「塾生同士の絆を深め、互いの資質・能力を高めること」等、合宿に臨む塾生への期待が述べられました。また、塾生代表の言葉として三枝 美帆 塾生が、「合宿での学びが教師になるという目標実現のために十分生かせるよう取り組んでいきます。」と合宿への意気込みを述べました。その後、14 期生全員が、合宿の成功を願って班長を中心に練習を重ねた「養成塾の歌」を歌いました。

1 日目の午前には、同センター石田 周 教育開発課長が「教師に求められるもの～教育者としての自覚と責任～」をテーマに講話を行いました。石田課長からは、「児童・生徒、保護者、同僚、地域の方々にとって魅力ある教師を目指し、養成塾生として誇りをもち、学び続けてほしい。」という話がありました。また、魅力ある教師であるためには何が必要なのか、先人の言葉や具体的な事例から説明があり、塾生は、引き締まった表情で受講していました。



－石田課長の講話－



－安全指導－



－ラジオ体操－



－創作表現「花火」－



－班対抗リバーシー－

2 日目の午前中には、東京教師養成塾の齋藤 辰雄 教授、青木秀雄 教授、牛島 隆文 教授が「集団を把握する～体育の授業づくりの在り方～」をテーマに実技形式と講義形式による講座を行いました。講座の前半では、塾生全員が体育館に集合し、ラジオ体操を行いました。班長が中心となって練習を重ね、格段に上達した体操は、必ず学校での指導に生かされるはずです。

その後、3つのグループに分かれて、「表現活動」「体づくり」に関する実技講座と「安全指導の意義と留意点」に関する講義が行われました。塾生は、実技や講義に生き生きと取り組み、指導の意義や体育の楽しさを体感しました。

2 日目の午前と午後は、10 月 15 日（日）の公開講座に向けて班別協議を行いました。学習指導要領や準備してきた資料を持ち寄って、より良い授業を目指して検討を重ねました。今年度の公開講座のテーマである「各教科等の特性に応じた授業づくり ～主体的・対話的な学びを目指して～」を基に、塾生から様々な考えが出され、活発な意見交換が行われました。



－班別協議－

2 日目の午後に 2 つの講義が行われました。まず、東京都教育庁指導部 オリンピック・パラリンピック教育推進担当 荒川 元邦 課長を講師に招き、「オリンピック・パラリンピック教育の推進」をテーマに講義が行われました。オリンピック・パラリンピック教育の理念、実際の指導の在り方等について、塾生への期待を交えた話がありました。

次に、東京教師養成塾を担当する高瀬 智子 統括指導主事が「学校教育の使命と役割～公務員としての教員の責務～」をテーマに講義を行いました。塾生は、教育公務員として守るべき服務について、具体的な事例の検討を通して学びました。



－荒川課長の講義－

閉講式では、東京教師養成塾を担当する米村 珠子 主任指導主事が、合宿の講評と今後の塾生の更なる成長を期待する言葉を述べました。最後に塾生代表の言葉として檜垣 史 塾生が、合宿で学んだことの振り返り、感謝の気持ち、今後の講座や実習への意気込みを語りました。同じ目標をもつ仲間と過ごし、今後も切磋琢磨し合える仲間としての絆が深まりました。

## ●第8回講座

### 「子供に夢や希望をもたせるキャリア教育・グローバル人材の育成について」

平成29年8月5日（土）に「子供に夢や希望をもたせるキャリア教育・グローバル人材の育成について」をテーマに、第9回講座が行われました。前半は、小学校コースと特別支援学校コースに分かれてそれぞれのコースの具体例を取り上げながら、学習指導要領におけるキャリア教育の位置付けや基礎的・汎用的能力の理解について、担当指導主事から、講義が行われました。

その後、地下ホールで教職員研修センター研修部 米村 珠子 主任指導主事から「グローバル人材の育成について」をテーマに講義が行われました。まず、「グローバル人材と聞いて、誰を思い浮かべるか。」「グローバル人材は、どのような資質・能力をもっている人だと思うか。」という問いが投げかけられました。

そして、塾生の答えに関連させながら、国や東京都の重要施策としての位置付けやグローバル人材に求められる資質・能力についての説明がありました。JETプログラムによる英語指導助手、海外派遣研修という具体的な取組について、資料や米村主任の経験談から、塾生は具体的に学ぶことができました。

東京都教育委員会の取組として、都独自英語教材「Welcome to Tokyo」や「TOKYO GLOBAL GATEWAY」について、DVD映像資料による紹介が行われました。講義の中で「Welcome to Tokyo」の内容について、“Where do you want to go?”のフレーズを用いて、全塾生を生徒とした授業の一場面を想定した活動がありました。英語を使つてのやり取りは実際の授業の臨場感にあふれ、アクティブな講義となりました。そこには、子供たちのために、「Welcome to Tokyo」をはじめとする東京都の施策を理解し、学校教育の中で活用してほしいというメッセージが込められていました。

#### 【塾生の感想より】

- ・キャリア教育を意識し、今後、授業づくりを行うとともに、日頃の学級経営においても子供たちの「自分らしさ」を見いだしていけるようにしたい。
- ・グローバル人材の育成が東京都の施策として重要な位置にあることを学びました。今後より具体的にとらえていくとともに、視野を広げていきたい。



—意見を求める主任—

#### 【連載シリーズ コラム⑦】

### ◆地域社会・保護者からの信頼に応える◆

東京教師養成塾教授 木村 良平

学校教育は、学校の教育目標の具現化に向けて、学習指導要領等を基に創意工夫を図った教育課程を編成し展開されます。その教育を担うのは教師であり、学校の全教職員です。理想とする児童像を掲げ、児童・生徒一人一人の成長する姿を見るのは、学校として教師として至福の喜びとするところです。

その学校の教育活動は、周囲からの理解や協力、支援を得ることで、さらに充実した教育内容とすることができます。特に、公立の学校には、その地域社会に根付き、地域とともに歩み育ってきた姿があります。学校はそのことをしっかりと認識し、心の通う連携を図っていくことが肝要となります。

では、地域社会や保護者の方は学校を信頼し、何を期待し、何を求めているのでしょうか。それは、「基礎学力の習得」と「豊かな人間形成の基盤づくり」と言えます。

基礎学力は授業で学びます。1時間1時間の授業の積み重ねです。教師は指導力を磨き、分かる授業・楽しい授業の実践に努めなければなりません。“教師は授業で勝負する”の言葉が光ります。自己研鑽に励み、教師自らが学ぶことに喜びを感得する姿勢が、児童・生徒の心に響き保護者の思いに応えていきます。

豊かな心は学校生活を通して培っていきます。教室の学びあう学習のみならず、学校行事や学校生活全体が心を育む大切な教育環境です。校内の人間関係、自然環境、言語環境等が心に潤いを醸し出します。学校（教師）はそこを見逃さず、協働態勢で整え創る営みが大切です。そこに地域社会・保護者からの安心感や称賛、愛校心を寄せていただくことにつながります。

「信頼あってこそ、教育は実る」信頼に応えるとは、正に充実した教育を教師が確実に実践することであり、児童・生徒を心身共に健やかに育てることです。東京教師養成塾生は9月から伸長期に入ります。塾生は“授業で勝負”の気概をもち、地域社会・保護者の熱き思いを学び、心して特別教育実習に臨んでほしいと思います。そして養成塾では、指定校における貴重な教育実習の機会を通して、塾生が少しでも学べるように、教師としての資質・指導力向上を念頭に、指導を重ねてまいります。